

ちばしゅ通信 (Vol. 8)

特集 福祉・介護における “クオリティ” を考える

「ちばしゅ通信」も、平成 26 年 11 月 19 日に発行を開始して、今回で第 8 号目となります。

この間、本会における各拠点の開設の趣旨や実践、目指す方向性をお伝えしてきました。

改めて、10 年の実践をふりかえってみると、本人（利用者）とその家族、近隣地域の方々との関わり合いの中で、“家や身近な地域で暮らすこと”の大事さや“馴染みの関係”の重要性、“ちょっとした配慮・気遣い”や“粘り強く関わる”ことで保てること等々、多くのことに気づかされ、学ばせていただきました。

一方で、福祉・介護の“クオリティ”ってなんだろう？と考えさせられた日々でもありました。

そして、「いい介護」「いい支援」ということを、本人（利用者）とその家族、地域の皆さん、福祉・介護関係者と共に整理し、考えることが必要だと強く感じました。

そこで、本号からは、他の地域の仲間達の実践事例を紹介しながら、“本人や家族にとって”“地域・社会にとって”“福祉・介護職にとって”“自らにとって”という観点から、福祉・介護における“クオリティ”を考えるきっかけとしていきたいと思ひます。

※なお、今後掲載する実践事例については、紹介する団体からの原稿、又は、本会取材の原稿と、2 つの形式となります。形式によって文体が異なりますので、ご承知おきください。

【事例】木守舎（鳥取県鳥取市）
（高齢分野：小規模多機能型居宅介護）
「珈琲豆がつなぐ、Aさんらしい暮らし」

○小規模多機能型居宅介護を利用するまで

Aさんは78歳の女性。平成24年に認知症の診断を受けている。徐々に物忘れがひどくなり、散歩に出ると帰り道がわからなくなったり、それまでできていた家事も難しくなってきた。夕方になると「晩御飯を作らなきゃ」と意気込んで台所に立つものの、以前のように段取り良く出来ず、毎日イライラして長年連れ添った夫や息子さんと口論をするようになってしまった。そんな日々に息子さんも疲れ果て、たまたま耳にした「小規模多機能型居宅介護 木守舎」の噂を聞いて、事業所へ相談に来られたのが平成26年夏のことだった。

○Aさんの思いはなんだろう

Aさん一家は10年前まで鳥取駅前評判の喫茶店を営み、閉店した今でも、自宅兼店舗でこだわりの自家焙煎珈琲豆を販売している。Aさんは認知症になった今でも店に立ち、お客さんの相手をしている。職人堅気の夫を支えたい、自分もしっかりしてなきゃ・・・という気持ちとその立ち姿にあふれている。

そんな忙しい毎日でも、近所にある喫茶店「ホットハウス」に長年通いつめ、馴染みの友人たちとの会話を生きがいに暮らしてきた。

Aさんと衝突する日々に疲れきった家族を支援するため、まずは夕方の短時間の「通い」を提案したが、Aさん本人

は首を縦に振らない。Aさんとの信頼関係を培うため、自宅兼店舗にスタッフが「訪問」で通い詰める日々が続く。店番をしていることに誇りを持っているAさんに、いったいどんな支援が必要なのか？事業所として自問を繰り返す。

Aさんが私たちスタッフの顔を見て笑顔が出るようになってきたのを見計らって、「他の利用者に珈琲を振舞ってもらおう」という名目で「通い」を試してみたものの、「どうして私がここに来なければならぬの」と言われ、すぐに歩いて自宅に帰ってしまう日々が続いた。「どうして私が・・・」というAさんの言葉はもったもた。でもこのままだとAさんとその家族の暮らしが行き詰まってしまう。

○Aさんの思いに立ち返る

「Aさんの大切にしている事は何だろうか？」

Aさんについてスタッフでミーティングをした。Aさんは「店番をしなければいけない、家族を支えなければいけない」という強い思いがある。自営業のAさん家族にとって、店番をしているというのはその家族の一員であることの証明でもある。しかし認知症のため、馴染みのお客さんに声をかけることはできても、豆をきちんと量ったり、お釣りを渡すという基本的なことができない。けっして言葉には出さないが、Aさんには「自分は家族の一員としての役割を果たしているのだろうか」という悩みがあるのではないかと・・・と「木守舎」では考えた。

店番を続けることはもちろん大事だが、店に立つ以外でも、家業の助けになっているという満足感が得られることはないのだろうか。

そして、なじみの喫茶店「ホットハウス」に行けば友人と過ごす大切な時間がある。「通い」を増やせば、その暮らし

を奪ってしまうことにもつながりかねない。Aさんにとって必要で、われわれ事業所にできる支援はないのか、見つめ直すことにした。

○Aさんの新たな仕事を提案

Aさんにとって家業の珈琲豆販売に携わることは家族の一員としての証し。では、Aさんと事業所を、「珈琲豆」で結ぶことはできないかを考えてみた。

Aさんのお店と「小規模多機能型居宅介護 木守舎」がコラボレーション（共同）で、オリジナルブレンド豆を作り、それをAさんとスタッフがお客さんに配達をするというのはどうだろうか。配達に行き、出会いが増えて販路が拡大するたびに、Aさんの仕事が増え、店に立つ以外でも家族の役に立つ実感が得られるのではないだろうか。

早速息子さんにこの提案をしたところ、二つ返事でOKを頂いた。Aさんのお店と事業所のコラボ商品「木守舎ブレンド」企画が固まった。

早速、運営推進会議と家族会でも提案し、メンバーに試飲をしていただいた。その中で一番人気だったブレンド豆を、「木守舎ブレンド珈琲」と名づけた。

シールのデザインは小物づくりの得意なスタッフが担当。販路拡大の第一歩として、「木守舎」の母体法人がおこなっているカフェのメニューに取り入れたり、機関紙「いくのさん家の玉子焼き」に載せたりして宣伝を開始。すぐに注文が入るようになり、Aさんとスタッフの配達と集金作業が始まった。

今では、口コミでファンが増え、色々とところから注文を受けるようになり、Aさんのおかげで、事業所も地域に溶け込む機会を得て、逆に事業所は「ありがたい」状態となった。

「木守舎」は、Aさん家族の家業のお手伝いをしているのではない。珈琲豆の配達というAさんの社会的役割を通して

関係性を豊かにし、Aさんの望む暮らしに少しでも近づけていきたい、という支援の目標を見失わないよう心掛けているのである。

○新たに取り組んでいること

課題として残されている夕方の支援については、「通い」で夕食のおかず作りを職員といっしょに行い、自宅に持ち帰って家族に食べてもらうという取り組みを開始した。いずれは自宅でAさんが自分で夕食作りができるようにつなげていきたいと考えているとの事である。

また、Aさんの自宅のすぐ近くの商店街のお祭りで、「木守舎c a f e」を出店する計画も進めている。Aさんには淹れたて珈琲をお客さんに出してもらい、宣伝と販売をがんばっていただきたいと事業所は考えている。

「木守舎ブレンド珈琲」のファンが増えるたびにAさんの関係性も増えていく。珈琲豆のもたらず絆が、これからもっとこの町に広がっていったらいいな、と考えている今日この頃である。



「木守舎ブレンド珈琲」



「珈琲を入れる A さん」

<木守舎・概要>

【事業所名】

小規模多機能型居宅介護 木守舎

【法人種類】

社会福祉法人

【事業所住所】

鳥取県鳥取市行徳 2 丁目 429 番地

【登録定員/登録者数】

25 名/23 名 (H27 年 2 月 1 日現在)

【通い定員/通いの 1 日平均数】

15 名/12.7 名 (H27 年 1 月)

【宿泊定員/宿泊の 1 日平均数】

9 名/5.3 名 (H27 年 1 月)

【1 日あたりの訪問件数】

約 9 件 (H27 年 1 月)

【平均介護度】

3.0 (H27 年 2 月 1 日現在)

【生活圏域人口 (A 圏域)】

人口 : 13,374 名

【生活圏域の設定数】

A 圏域には 5 箇所の小規模多機能がある。

【市町村人口】

192,954 名 (高齢化率 28.6%)

【生活圏域高齢化率 (A 圏域)】

29.3% 高齢者世帯率 62.4%

【地域の特徴】

鳥取駅周辺の商店街からほど近い距離の住宅街。神社や仏閣が多く、近くに大規模河川があるため住民の防災意識が高い。高齢者が多く、地元のスーパーや喫茶店が憩いの場になっている。

先月号に続いて、ちば舎通信のスペースを頂けるという、有難いお言葉を頂きましたので、まさに、徒然なるままに、前後の脈絡のない文章になると思います。しばらくの間広報誌の紙面をお借りしたいと思います。

例年、関東地方の梅雨入りは、6月8日が一番多いということですが、今日、6月9日は未明から大雨で、気象庁も中々に粹なはからいで、昨日6月8日に梅雨入り宣言を発表いたしました。

これから、一か月半、雨や曇りの気分も湿りがちな季節を迎えますが、この季節ならではの風情というか、趣もあり、新緑と雨、雨と花の様に、アジサイが最も美しい季節でもあります。

色彩には、明度と色度と彩度があり、明度とは、モノトーン、色度とは、色の三原色といわれる、赤、青、黄など色の種類を言い、彩度とは、色の放つきらめきとでも表現すればよいのか、彩度と雨の関係が最も素晴らしい季節です。自然のすべての木々や花々が、雨に触れるとその美しさが際立って見えることをお気づきのことと思います。

これは、明度と色度は全く変わらないのに、彩度が雨によって引き立てられることから、新緑も、アジサイやバラも、沢山の花がいつもより特に綺麗に目に映り感動することが多々あります。梅雨末期の集中豪雨には特別な警戒をしなければなりません。この季節ならではの楽しみ方もあるのではないかと思います。

一方、社会に目を向ければ、新たな人生のスタートを切った、新社会人の方々も二か月半が過ぎ、一つの手応えを感じ躍動感を覚えている方も、また、人付き合いに傷ついたり、仕事でつまずいたり、自信を失いかけている方もおられるのではないかと思います。

それが、この曇空の多い季節と重なり、気持ちも一緒に重くなってしまってもあるのかも知れません。でもこの薄暗いトンネルを抜ければ、夏の陽光がひときわまぶしく映る太陽の季節を迎えます。

私も、前期高齢者の仲間入りをし、振り返って見れば失敗を重ねて来た数の方が、達成感を感じたことよりもはるかに多いと思っています。

そういう意味では、自分もまだまだ道半ば、間違い、勘違い、見当識障害などが起き始めてみると、失敗を恐れるということではなく、一つ一つのことを丁寧に、大きな問題に向き合えば、時には立ち止まり、周辺環境を整えながら、進んでいくということを心がけるようになります。それは、一見、遠回りなのですが、結局は近道になるということは、経験則の中で学んできたことです。しかし、若い人は失敗を恐れず直球勝負で生きてみて、自分の為に生きるのではなく、人の為に何ができるのかということ、常々、心がけて生きることが大切なのではないかと思います。

(齊藤 操／総合施設長)

理事からのメッセージ



いつもは、宮城県仙台市にあるNPO法人全国コミュニティライフサポートセンター（CLC）という中間支援組織に勤務しています。CLCは平成13年2月に法人設立し、私はその年の12月に入りました。ですので、かれこれ13年半が経過したことになります。（信じられない・・・）←心のつぶやきです。

平成16年に、ちば地域生活支援舎立ち上げの話を聞いたときは、まさか自分がこんなに長く関わることになるなんて、思ってもおりませんでした。設立当初は、ちば舎＝鶉嶺の家であり、お年寄りが1日2～3人くらい利用されているこじんまりとした宅老所という感じでした。会議や諸々の用事で仙台から東金に来たときに、お泊りのおばあさんと襖ひとつ隔てた部屋に泊めてもらったり、日中はおじいさん達と一緒にお昼をご馳走になったりした記憶があります。ほのぼのとした居心地のいい空間だなあと思う反面、私は心ひそかに（これで法人を維持していけるのだろうか・・・）と按じておりました。ところがそんな私の老婆心(?)をよそに、ちば舎は、ぽけっと、ありさ、そして五根の家などを立ち上げ、どんどん成長していきました。

『どんなに重い障がいがあっても、本人のこれまでの人間関係を維持・継続しながら、地域の中で寄り添い、支えたい』『日常生活の圏域で、住民や地域のありように合わせた支援を、そこに住む人たちとともにつくりたい』という当初からの思いを貫き通すには、ときに困難を招くこともあったと思います。そんな一生懸命な姿に共感し（放っておけず）、力になりたい協力したいと思ってくださる方々が近くにいて、支え続けてくださっていることに、遥か東北の地から感謝しているこの頃であります。

堀切 明美（監事／全国コミュニティライフサポートセンター）

【各種イベント＆活動情報】

東金市 きもの地サロン（初心者歓迎）

着なくなった着物をほどこき、アクセサリー、ポーチ、バッグ、タペストリーなどの小物から服まで、その人に合わせてリメイクするサロンです。

◆開催日：毎月第二、第四の月曜日

◆場所：鶉嶺の家、ありさ

参加費・時間等の詳細を知りたい方は、鶉嶺の家までご連絡ください。（50-0285）

東金市 ヨガサロン

旧道の岸本薬局の斜め向かいにある「ありさ」の2階で開催中。

興味のある方は、ありさまでご連絡ください。（電話：50-0362）

千葉県 公開シンポジウム「生活困窮者支援は何を目指すのか」

日時：2015年7月4日（土）13:00～16:00 / 会場：千葉県弁護士会館（千葉市・県庁近く）

内容：◆基調講演「生活困窮者自立支援制度全国の実施状況」

講師：厚労省・社会・援護局 鍋木奈津子 氏

◆報告「シェルター一刻荘で出会った人たち」

◆シンポジウム「生活困窮者支援は何を目指すのか」

主催：ひと・暮らしサポートネットちば（043-304-5789）



【法人内の各事業所から】

鶺鴒の家（高齢者・障がい者）

先日、H君とK君と駐車場の草むしりをしていて、近所に住むお兄さんが草むしりを手伝ってくれました。草むしりが終わるところにはK君が「兄貴！！」と呼ぶ程仲良くなってくれました。お兄さん、暑い中ありがとうございました。

鶺鴒の家（児童）

小学校高学年のAちゃんは、男性スタッフがいたら女王様になります。「ジュース（飲む）！」「（あれ）って！」等々。ネタが尽きると只々名前を呼んで、とにかく傍にはべらせてはニコニコとご満悦です。そんなAちゃん、実はとっても頑張り屋さん。普段は車イスですが、歩く事が大好きで、スタッフの介助や装具で歩き続け、なかなかやめようとしません。抱っこも大好きで、スタッフがギュッとハグすると、ハグを返してくれます。そんな時、癒されているのは実はスタッフの方なんですよね。

街かど福祉相談室ると

皆様からお話を伺っている中で、「〇〇病院は先生が優しい」、「〇〇に新しくデイサービスが出来た」など情報をもろることがよくあります。そしてネットワークの広さ、早さ、強さに驚かされます。『へえ』ボタンがあれば何度も押ししてしまうことでしょう。

ありさ

最近カゴの注文が増えてきました(^o^)嬉しいばかりです。また、10周年記念の時に作った英字新聞を使ったギフトバックもたくさん注文され、みんなで力を合わせて作っています。7/4（土）には「来たいよ！いち・に・さんぶ地域フェスタ」が開催され、出店を予定しています。みなさん！ぜひ足を運んでください！お待ちしております。(^_-)-☆

五根の家・グループホーム

先日、あるご入居者のひ孫ちゃんが来られて、一緒に過ごしながら満面の笑みでした。ご家族の面会があったり、娘さんと一緒に美容室にお出かけする方もいて、改めてご家族との時間は大切だなあと感じました。

子ども支援センターぽけっと

先日東金特別支援学校の学校公開へ行かせて頂きました。ぽけっとでは見られない、表情や行動に感心したり、感動したりスタッフも元気をもらって帰ってきました。もうすぐ夏休みが始まります。子ども達と遊んで下さるボランティアを募集しています！

サポートセンタースピリッツ

通所サービスでは、ご自宅や学校への送迎が認められていますが、訪問系サービスでは、ヘルパーが運転しておでかけすることは、基本的に認められていません。福祉タクシーや福祉有償運送の指定があれば、ヘルパーが運転しておでかけも可能になります。スピリッツでは、福祉有償運送の指定をとることを目指しております。皆様には福祉有償運送に関するアンケートで、ご協力頂きたいと思っておりますので、その際はよろしくお願い致します。

ハンドワーク

シフォンケーキ作りが始まり、3ヶ月が過ぎようとしています。東金市役所やイベントにて販売していますので、見かけた際には購入してみてください。いかがでしょうか。



かばの家

まだ梅雨前だというのに暑い日が続きますね。抹茶のパンを出す予定でしたが、夏みかんのパンを出すことにしました。ぜひご賞味ください。今月は地元の千葉土建と武射田神社からの注文が入ります。



五根の家・小規模多機能ホーム

5月に新しいご利用者が来られています。元々いらしたご利用者とご近所で、昔からのお知り合いとの事。新しい方もその方にお会いするのが楽しみようです。ご近所付き合いがあるのは素敵だなあと感じました。



ちばしゃ通信 (Vol8)

発行日：2015年6月19日
発行元：ちば地域生活支援舎
編集責任者：宮下・太齋
連絡先：0475-53-3630

編集者のつぶやき

- ・「SANB0100号」本当におめでとうございます。パーティに出席し、改めて活動の深さと繋がり広さに感嘆させられました（Jerry）
- ・最近利用者さんと関わる機会が増えました。色々なお話をして下さり、とても楽しいです。話をしていると元気を貰えます。改めて会話は大事だなあと感じました（W）